

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
	合計	20

事業所番号	1470700327
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 磯風の謡
訪問調査日	平成24日12月20日
評価確定日	平成24年2月21日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
外部評価は20項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
[取り組みの事実]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
[次ステップに向けて期待したい内容]  
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470700327	事業の開始年月日	平成12年3月1日	
		指定年月日	平成20年8月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	グループホーム 磯風の謡			
所在地	( 235-0023 ) 神奈川県横浜市磯子区森5丁目5-53			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月6日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月29日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

屏風浦の高台に位置しベランダより磯子の港を一望できるとも静かな環境です。日常においても生活を共にしているセラピードッグの「カモメ」との散歩や近隣のショッピングセンター等でのお買い物を通じて生活に張りが出るようにしています。また1階デイサービスと協力して夏祭り等を実施、ボランティアさんの来所持にもデイサービスのご利用者と一緒に参加して楽しみ頂いています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年12月20日	評価機関 評価決定日	平成24年2月21日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示すると共に、パンフレット、名刺においても記載され、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。理念の周知については法人のTV朝礼、申し送り、カンファレンスで機会ある毎に行い、職員携帯票（羅針盤）に記載して名札と共に携帯し常に心がける糧としている。このホームは、京急屏風ヶ浦駅から徒歩で7-8分の高台にあり、見晴らしが良い。2階建ての2階の部分を使い9名の1ユニットで、1階は同法人のデイサービス部門が入っており、相互に協力関係にある。管理者は利用者とのコミュニケーションを大切にされたケアを進めており、職員も利用者と一緒に楽しむ風土があり、新しく入った職員もその雰囲気馴染み、良いホーム風土が継続している。この体制を維持し生活に笑顔があるホーム、家族も来やすいホームでありたいと考えている。

②地域との関係については、このホームは開所以来十数年を経過し、地元との関係は深まっている。森南町町内会に加入しており、地域の行事には、積極的に参加し、定期的に行われるふれあい食事は利用者の楽しみになっている。一方、ホームが行う夏祭り・もちつき大会には、地域住民の参加を頂いている。特筆すべきは、このホームと町内会の間に磯子消防署立会いの下、一昨年8月に「災害時協力協定」が締結された。磯子区のグループホームでは初めてのケースであり、地域との密着度を表しており、今回の東日本大震災をも先見した快挙である。運営推進会議も地域住民の方々の出席が7、8人と多く、実りの多い会議となっている。

③ケアについては、法人独自のシステム化されたアセスメント・ケアプランが使われている。1ユニットだからこそその家庭的な雰囲気が満ちており、日中は、ほとんどの利用者が自分の個室を離れて集っている。開所以来居るセラピー犬（カモメ）の存在も大きく、日に3度の犬と一緒に利用者のお散歩タイムは、近隣住民との会話のきっかけにもなっている。また、1階のデイサービスの車を利用出来ることから、ドライブも良く行われ、利用者の楽しみになっている。職員の教育については、特に新人の教育では独自の教育カリキュラムが組まれ、2日間は此処での介護の仕方を見てもらい、それ以降はチューター（教育係）が付いてOJT中心に実務的なプログラムでの教育が定着しており、良い介護者が順次育成されている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間が主体である</li> <li>・連帯の輪を無限に広げていく</li> <li>・日に日に新たな今日を創造していく</li> </ul> という理念を事業所内掲示し、また朝礼の際職員間で唱和し確認仕合っている。 法人内でその意味についての研修会も行われている。	この法人の理念は左記3項目である。理念の共有化については特に力を入れている。職員全員に浸透させるべく、月2回のテレビ朝礼、毎日の朝礼での唱和、職員の名札での携帯、また研修等を通して、徹底化を図っている。年に2回のキックオフでは理事長、事業部長、事業所、個人のレベルでそれぞれの展開が図られている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事等（ふれあい食事会・町内主催の防災訓練・中学校文化祭への作品出品・区役所への作品展示等）に積極的にご利用者達と共に参加している。</li> <li>・夏祭り等に地域住民の方達を招待して一緒に楽しんだりもする。</li> <li>・災害時の協力協定を締結している。</li> </ul>	町内会の行事等（ふれあい食事会・町内主催の防災訓練・中学校文化祭への作品出品・区役所への作品展示等）に積極的にご利用者達と共に参加している。ホームの夏祭り（8月）もちつき（12月）には、地域の方々を招待して一緒に楽しんでいる。ボランティアの方々も朗読・カラーバード・フラワーセラピー・生け花等の指導に来て頂いている。町内会との間で、一昨年8月に「災害時協力協定」を締結しており、ご近所との連携も進んでいる。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会等の依頼で「認知症について」の講演を行い、地域の方々の不安・疑問等に答えた。</li> <li>・町内会の人達とご利用者の御茶会を行い地域の方達に認知症の方と触れ合う機会を作っている。</li> </ul>		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2カ月に1回の運営推進会議では、グループホームの活動状況を知って頂いたり、災害時の施設内状況を知っていただき、地域協力の必要性を理解して頂いた上でアドバイスを戴いたり、御意見を戴いたりしている。</li> <li>・平成23年10月28日に地域の方達参加の「夜間想定避難訓練」を行なった。</li> </ul>	運営推進会議は2カ月に1回、定期的開催されている。地域住民の方々の出席が多く、包括支援センターにも参加頂き有意義な会議となっている。地域との協力が、大事な防災対策についても「協定」が出来た事もあり、避難訓練も町内の方々の参加を得て行われる。地域協力の必要性を理解して頂いた上でアドバイスを戴いたり、御意見を戴いたりしている。平成23年10月28日に地域の方達参加の「夜間想定避難訓練」を行なった。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市事業指導室開催の講演会に於いて磯風の事例を交えながらの認知症対応の講演会を行い協力した。</li> <li>・横浜市事業指導室の担当者に協力してもらい「身体拘束禁止・虐待防止」の研修を行なって戴いた。</li> <li>・更新時、区役所の担当者とのコミュニケーションを取っている。</li> </ul>	市との協働については、横浜市事業指導室開催の講演会に於いて磯風の事例を交えながらの認知症対応の講演会の実施に協力、またグループホーム連絡会の企画では、横浜市事業指導室の担当者に協力してもらい「身体拘束禁止・虐待防止」の研修を、磯風の管理者がサポートし、一般の参加も含めて行なった。区役所とは、更新時に担当者とのコミュニケーションを取っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員達は、意識して身体拘束はしない介護を心がけている。</li> <li>・万が一どうしても身体拘束しなければならない状況が発生した時には、職員全体で話し合い、別な方法を精査している。</li> <li>・身体拘束禁止の研修を職場内で実施している。</li> </ul>	身体拘束の弊害については職員は充分理解し、身体拘束はしない介護を心がけている。万が一、どうしても身体拘束しなければならない状況が発生した時には、職員全体で話し合い、別な方法をも精査するようにしている。身体拘束禁止の研修を職場内で実施している。入口の戸は2階であるため、外側が急な階段になっており、危険防止の観点から、ご家族の同意を得て施錠している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待防止研修を職場内で行い、職員全員が常に意識しながら業務に取り組んでいる。</li> <li>・痣1つでも見逃す事がないように職員同士声掛け連携してアンテナをしっかりと張り巡らしている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員達は、職場内研修を行い周知して業務にあたっている。必要になった時、直ぐにつなげる様にしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居に際し、契約時御本人・御家族と十分な時間を取り、面談し双方からアセスメントを行い、重要事項説明書・契約書・個人情報使用同意書・ターミナル・解約・金銭面等の説明を判り易く行い、納得していただいた上でサイン・押印して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御家族・町内会・地域包括支援センター・職員・管理者等が集まって運営推進会議を2カ月に1度行っている。</li> <li>・御家族が面会時、職員は必ずご利用者の状況などの説明を行い、御家族からの相談や意見にもしっかりと対応するよう心掛けている。</li> </ul>	毎月、利用者の活動状況の写真が入ったお便りをご家族に出しており、その時の反応や意見等を伺っている。また、ご家族の来訪が多く、面会時、職員は必ずご利用者の状況などの説明を行い、御家族からの相談や意見にもしっかりと対応するよう心掛けている。運営推進会議は2カ月に1度行っており、町内会や地域包括支援センターの情報を聞いて頂くと共に、ご意見も頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1か月に1回全体会議を行い、職場内業務や運営について職員・管理者が話し合う機会を設けている。	夜勤者を除き、職員全員参加の毎月の全体会議が行われ、意見交換が行われている。管理者は、今まで以上に、職員間の意見交換の活発化と意思疎通を図っている。年2回の面接では、個人目標に相当する「現状と未来」（作文提出）を中心に面接を行っている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員の人事考課があり、職員に「現状と未来」を書いてもらい、それに沿って面談を行い、事業部長・人事・理事長へ繋げ昇給・昇格・異動などを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・パソコンでの業務日報が事業部長へ挙がり、必要に応じて理事長へ報告されている。また、理事長が直接事業所に来て職員達と直接対話をしている。 ・事業所長から事業部長と理事長・代表者の報告・連絡・相談はスムーズに行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・管理者や職員が法人内研修や外部研修などへ積極的に参加できる機会を作り参加している。 ・管理者は、法人内8事業所あるグループホーム会議に月一回出席・グループホーム連絡会・ブロック会にも積極的に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実調の際、ご家族やご本人から良く話しを聴き、生活環境を感じて実際の介護に生かしご利用者に安心した暮らしを提供できるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の際、ご家族やご本人から良く話しを聴き、生活環境を感じて実際の介護に生かしご利用者に安心した暮らしを提供できるよう心掛け、ご家族が見学・面会に来た時にもよく話しができる機会を作っている。（報・連・相をまめに行っている）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当初のご本人・ご家族の意向を踏まえ日々のご利用者の心身の変化をよく観察し、毎日の申し送りで職員間で検討、必要に応じて家族や医師に相談しながら努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の暮らしを生き生きとしたもの出来るよう、声掛け、確認の上、家事や犬の散歩等に職員と共に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議への出席をお願いしたり、お誕生会、夏祭り、外出企画などのイベントにご招待し、それぞれの役割を楽しんで頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キイパーソンだけでなく、ご本人に関係のあるご家族や馴染みの方々との電話や手紙の遣り取りを行ったりしている。	キイパーソンだけでなく、ご家族や馴染みの方々の電話や手紙のやり取りを支援している。デイサービス部門の車を利用しての外出が多く、その機会を利用して、通りすがりに利用者の馴染みの場所・思い出の場所に立ち寄るケースもある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者は、殆どの時間を共有スペースで過ごされている。職員の声掛け等で協力して家事などをされたり、アクティビティを一緒に行ったりしている。お互いの居室に遊びに行ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、ご利用者のご家族との手紙送付や新しい入所施設へ訪問、お見舞いなどを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各ご利用者には、居室担当の職員が居り、ご利用者1人1人の思いや意向を把握し、必要時には、ご家族に連絡し相談したりしている。また、身の回り品のお買い物などには、ご利用者本人と一緒に買い物に行き選んで頂いてる。	各ご利用者には居室担当の職員がおり、ご利用者の思いや意向を日頃の会話や声かけから汲み取り、把握に努めている。ご家族からの情報も参考にしている。昼食はデイサービス部門にお願いしており、余裕が出た時間を利用者とのふれあいに使い、その方の“思い”を把握する時間に役立てている。また、身の回り品のお買い物などには、ご利用者本人と一緒に買い物に行き選んで頂いてる。ご本人の思いは、経過支援記録に詳細に記載し、その中から“思い”を抽出し介護計画に反映している。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際、ご家族やご本人から良く話を聴き、生活環境を感じて実際の介護に活かし、ご利用者に安心した暮らしを提供出来るように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者の心身の変化をよく観察し、毎日の申し送りで職員間で検討、必要に応じて家族や医師に相談しながら努めている。月1回お1人おひとりのケアマンファレンスを行っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、必要時はその時々職員達でカンファレンスを行い、1人ひとりのご利用者の状況把握・改善を行い、介護計画書に反映・評価をご家族と検討している。 必要に応じて、常時ご家族・医療等に相談、報告を行っている。	毎月1回、必要時はその時々職員達でカンファレンスを行い、1人ひとりのご利用者の状況把握・改善を行い、介護計画書に反映・評価をご家族と検討している。必要に応じて、常時ご家族・医療等に相談、報告を行っている。原則的にはモニタリングは3カ月一度行われるが、必要な場合はその都度行っている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜勤で個別記録を欠かさず記入し、朝・夕の申し送り時職員間で共有化し、介護に又介護計画見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	秀峰会の中には、様々なサービスがあり、多くのケアマネジャーが居るので、そのご利用者やご家族の状況に応じて多方面に相談し、必要に応じて対応出来る協力体制がある。また、必要があれば速やかに区役所や地域包括支援センターに繋げる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣の小・中学校との交流や、町内会のイベント参加等を通して張りのある生活を持って頂いている。 ・地域ボランティアの積極的な受け入れにより様々な人達と交流し、生活に豊かさが生まれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関医師が主治医のご利用者として、入居前からの主治医へ通院されているご利用者が居られるが、ご利用者やご家族の希望を尊重しながら支援している。	協力医療機関は、同じグループのみずほ診療所で、24時間対応である。大半の利用者が、みずほ診療所だが、利用者の意向により他の医療機関をかかりつけ医にしている方もいる。みずほ診療所は、月2回の往診に、協力歯科医は、週1回の往診に来てもらっている。看護師は毎週訪問頂き、訪問マッサージも利用している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日、みずほクリニックの訪問看護師がご利用者全員の健康チェックを行ってくれている。 ・何かの異変時は24時間体制で随時相談・指示を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ご利用者入院時には即必要情報が提供できる様常に準備している。 ・万が一の入院があった場合、定期的に見舞に行ったり、電話や面会で医師やご家族と話して、退院時に向けての準備に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化とターミナル」についての説明を必ず行い、また入居中身体状況に変化が生じた場合、ご家族と医療機関等と話し合い確認しながら取り組む仕組みが出来ている。	契約時に「重度化とターミナル」についての説明を必ず行い、また入居中身体状況に変化が生じた場合、ご家族と医療機関等と話し合い確認しながら取り組む仕組みが出来ている。ターミナルに際しては、入口で、本格突入時で医師、家族と相談しながら進めることにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、職員達と確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。 また、運営推進会議などで地域の協力が得られる体制作りが出来ている。 町内会と「災害時協力協定」を取り交わしている。	運営推進会議等を通して地域の防災協力体制作りが出来ている。結果的に23年8月、町内会との「災害時協力協定」が締結され、11月30日には、地域住民参加の夜間想定避難訓練を行う予定である。災害対策を媒体として、地域との関係が更に深まる事が期待される。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者の尊厳・プライバシーに配慮した支援を行っている。 ・プライバシー保護研修を行い職員間でも常に心掛けている。	トイレ・入浴の声かけには、常に利用者の尊厳を損なわぬよう、プライバシーに配慮し、注意しながら行っている。食事前には、トイレの声かけをし、中座することなく気持ちよく食事が出来るような配慮もしている。また、プライバシー保護研修を行い、職員間でも常に心掛けている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・物事を行う時には必ずご本人に意思確認を行っている。 ・ご利用者が、常に気持ちを伝えられる環境作りに努め、自己決定が出来るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活としての1日の流れは大まかにあるが、その中でもご利用者のペースを大切に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣服などご本人と一緒に会話し、楽しみながら選んで頂いている。 ・衣服や日常本人がお使いになるものは、出来る限り一緒に買い物に行き、選んでいって頂いている。 ・入浴や洗顔後の化粧水、ブラッシング等も楽しみながら出来る様支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・座席に配慮している ・ご利用者のスキルに合わせて調理、盛り付け、配膳、片付け等に参加、その時々のお食事の楽しみを盛り込んでいる。 ・ご利用者と一緒に食材等のお買い物に行き、食材等も選んでいただいている。	朝・夕食は、ホームで調理し、昼食は、デイサービス部門に作ってもらっている。その余裕が出来た時間を、買い物や入浴など有意義に活用している。盛り付け・配膳・片付けには、利用者に参加頂いている。食事の際の座席も、テーブルを3つに分け、楽しく食事が出来るよう配慮している。利用者と一緒に食材等の買い物に行き、食材等も選んで頂いている。利用者の誕生日には、ご家族もお呼びして楽しく迎え、その際居室担当が利用者の希望を聞いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のご利用者のスキルに合わせた食事の形状や量等の工夫を職員全員統一理解している。</li> <li>・お茶の時間、2種類のお茶を用意してご利用者に選択してもらっている。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後、声掛けにて個々のご利用者に合わせて口腔ケアを行っていただき、ご自身で出来ない方については、職員が手伝っている。</li> <li>・月4回の訪問歯科 歯科医・歯科衛生士による口腔ケア指導を受けている。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者1人ひとりの排泄介助を職員全員が理解している。</li> <li>・排泄の訴えの無いご利用者でも、トイレ誘導し、トイレでの排泄が出来る様支援している。</li> </ul>	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の訴えの無いご利用者でも、出来るだけトイレ誘導の支援を行っている。基本的には、おむつの使用は極力避け、リハパンにパットの使用に変えている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修等を通して便秘の怖さを職員全員が理解している。</li> <li>・個々のご利用者の排泄をチェックシートを利用し、日々の申し送りで周知し、服薬や運動また、医師への相談などで管理、取り組みしている。</li> </ul>		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発熱や体調不良があるご利用者以外は、出来るだけご利用者の意思を確認しながら支援している。</li> <li>・状況によって入浴が難しいご利用者にも足浴などで対応したりする。</li> </ul>	発熱や体調不良がある利用者以外は、できるだけご利用者の意思を確認しながら固定観念に捉われず、臨機応変に対処している。午前でも午後でも入浴できる体制を整えている。入浴が難しい利用者には、足浴などで対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間は、安心してゆっくり眠れるよう配慮している。（必要以外の電気は消して暗くする・洗濯などの時間制限等） ・日中は、身体を動かしたり、ゆっくり寛げる時間を作ったり等工夫し、ご利用者が退屈になったり、眠くなったりしない様、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬は、職員全員が共通理解しており、服薬中の状況観察は常に行い、申し送り、変化があれば必ず医師に指示を仰いでいる。 ・薬は、日勤者がセット・夜勤者がチェック、日勤者が声だし名前確認して間違いが無いよう配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の御利用者の得意な事や楽しいと感じられる事を職員達がよく理解し、どの様に上手くそこへ導いて行けるかの検討など活発に行い支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・犬（カモメ）の散歩やお買い物など楽しみにしている御利用者達の為、天候大荒れ等特別な事が無い限り毎日行っている。 ・町内会のイベントにも積極的に参加している。 ・ご家族もまめにご利用者を連れて外出している。	天気の良い日は犬（カモメ）を9時・13時・16時の3回お散歩をさせるので、その時利用者が同道している。町内会のふれあい食事会等の行事へ参加している。季節の良い時期は、月1回は、外出行事を行っている。ご家族もまめにご本人を連れて外出されている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は、お金を持つという感覚が殆ど無いご利用者達なので、職員がお小遣いを預かり随時対応している。 ・スキルの高いご利用者には、お支払いをお願いしている。 ・会計時は、ご利用者の目の前で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・グループホーム内の電話で、ご利用者の必要に応じて対応している。手紙等書く時は、ご利用者のスキルに合わせ、言葉掛けや直接職員がお手伝いする事もある。 ※個人情報への配慮も意識して行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・落ち着ける共有の空間作りに職員全員が心掛け、配慮している。 ・季節の花を生けたり、その時節が判るもの飾りなどをご利用者達と一緒に挙う等している。	掃除は行き届き、清潔な共用空間であることが確認できている。職員全員が落ち着ける共用空間作りに心がけ、配慮している。見晴らしの良いベランダには、花を植えたプランターがあり、水やりなども利用者の協力を得ている。季節感のある飾り付けにも気を配り、利用者が居心地よく過せるよう工夫している。また、季節の花を生けたり、その時節が判る飾りなどをご利用者達と一緒に挙う等、生活感や季節感を採り入れて工夫に努めている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過せるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングが離れているので、自由に行き来出来る環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過せる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過せるような工夫をしている	入居時に、ご本人やご家族と居室作りを行い、ご利用者が暮らしている間に不都合があればご利用者と一緒に相談しながら工夫している。	入居時に、本人やご家族と居室作りを行い、利用者が暮らして不都合があればご利用者と一緒に相談しながら模様替えをしている。居室は清潔で、各部屋が個性的に家具類が配置され、思い々に過せるよう工夫がされている。季節の衣類の交換は、居室担当者が家族に報告して行っている。掃除は、毎日朝礼の後、利用者に声かけして一緒に挙うている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード的に死角が多いが、出来る限り職員が動き、目を配るようにしている。 怪我など無いように配慮しながら、「出来る事」「判る事」を見極め、自立支援を行っている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム 磯風の謡

作成日

平成24年 2月20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	ご家族が面会に来られ、ご利用者と話し帰るだけになっている事が多く見受けられる。	・ご家族にも様々なイベントに参加して頂けるよう声掛け・支援していく。	居室担当者の連絡を密にしている。その中で行事への出席等の声掛けも積極的に行っていく。	1年
2	41	現在入所中のご利用者全員の食欲があり、食事の完食をされているが、体重が増加傾向にある。	ベストの体重で健康的に過ごしていただけるようにする。	野菜やきのご等を多く使った食事作りを心掛けている。主食に対して物足りなさが出ない様にお粥等でも対応している。	半年
3	3 ・ 4	運営推進会議や「災害時協力協定」・避難訓練等様々な場面で地域の方々に協力戴いているが、まだまだ事業所の能力を生かしての地域貢献が少ない	地域の方々に寄り添い助け合える関係性の向上	町内会行事へのご利用者との参加や事業所行事等へのご招待等は行っているがまだ特定の方々との接触でしかないのもっと幅広い交流を目指す。	半年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

(株)R-CORPORATION外部評価事業部